

保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人 大谷菩提樹会
施設名	幼保連携型認定こども園 宝来こども園
報告者（役職）	中島 渉子（園長）
住所・連絡先	北海道河東郡音更町宝来仲町南1丁目10
	☎ 0155-31-0825
	E-mail hourai@forest.ocn.ne.jp

○タイトル（保育計画）

「やってみたい!!」が広がる園庭を～挑戦する心と体を育む、豊かな遊び環境～

○主な助成備品

コンビネーション遊具ステップフォレスト

1. 保育計画策定の目的

自分の力を試しながら「やってみたい!」という挑戦する心を育てていくために、『遊び環境』は大切なものだと感じています。

また、小さな失敗を重ねながら自分の力を知り、乗り越えて成功するための力を身に付けていき、大きな怪我をしないための危険回避能力を身に付けていく事は、低年齢のうちからの体を使った日々の遊びの中から育ちます。

建築時、低年齢の園児の遊びスペースとして芝生広場を設けましたが予算の関係で固定遊具を置くことが叶いませんでした。遊びは生み出すものですが、環境としての道具はとても大切です。子どもたちの生活と活動がより豊かになることを期待し、コンビネーション遊具を活用した保育計画を策定いたしました。

2. 具体的な実施内容

園庭の低年齢児のための芝生広場スペースに、低年齢児用のコンビネーション遊具を設置していただきました。

登る、ぶら下がる、滑る、くぐる、などの全身を使った遊びの環境ができました。また、異年齢の交流として、社会性を育む場所としても自由に活用できるよう、玄関近くのアーケード横に設置しました。

3. その成果と評価

0～2歳児の園児が安全に遊べるようなステップの高さや手すりの太さで、保育者の見守りの中で、大人の手を借りずに自分で登り降りし、頭上のバーにぶら下がりゆらゆらと体を揺らしたり、滑り台を滑り降りたりして、体を使う楽しさを体感している様子が見られます。



ハイハイの段階の0歳児も手足を使ってよじ登り、後ろ向きに降り、全身運動を通して体幹が整い、また、「もう一度やってみたい」という思いでその遊びを繰り返すことで、体を動かす事への意欲につながっている姿があります。



踊り場の下スペースは程よい隠れ家的空間で、友達を意識しだした低年齢の子どもたちが一緒に入って顔を見合わせたり、おしゃべりしたり、くぐって出たり入ったりを繰り返しながら関係性を作って遊んでいます。



玄関前のアプローチにある事で、大きいクラスの園児も小さなクラスの園児に関心を寄せ、手を貸してあげたり、声をかけるなど、笑顔の異年齢コミュニケーションが作られています。



よじ登る、ぶら下がる、跳びつく、体を支える、ひねる、伸ばす、縮まる、バランスをとる、降りようとする、滑らせる、身をかかわす…。自分の力を試しながら「やってみよう！」という、挑戦する心と体を育てていくこと。そのために豊かな遊び環境としての園庭遊具は、大きな役割を持っていると実感しています。



4. 今後の課題と展望

園児数に対しての園庭遊具の数は十分でなく、ここから繋がる遊びを期待して今後、このシリーズの低年齢児用遊具を増設していけたらと思います。基本になるコンビネーション遊具を寄贈していただく事が出来たので、少しずつ計画的に予算を組み、小さなものを足しながら遊び環境を整え、子どもたちの生活と活動がより豊かになることを目指していきたいと思っています。

以上